

目 次

日本画	1
書	5
洋画	11
工芸	17
写真	22
デザイン	29
彫刻	34

審査員一覧

【県外審査員】

工芸	福富 幸氏（岡山県立美術館 学芸課長）
写真	角尾 抽臣子氏（写真家 二科会写真部常任理事）
デザイン	後藤 雅宣氏（千葉大学 名誉教授）

【県内審査員】

日本画	大森幹夫、小村俊美、中村康二、東野布由美、広田あつ子、福間小夜子、三島京子、村上ななほ、吉岡珠恵、米原ひろこ、森脇純子
書	飯田 徹、小川 南、角折和夫、戸津川政世、中尾弘子、長浜晴風、眞鍋智浩、三谷雄喜、室下景雲、山崎銀川、山本英雲
洋画	春日裕次、金築秀俊、川上浩平、北本雅己、佐田尚穂、塩野 毅、杉谷俊一、田中敬二、田邊二枝、常松育夫、鶴原 勲、豊島美智恵、永尾和子、中島啓子、仲西嗣雄、原 昌之、藤原房子、二岡みえこ、堀江睦子、前島由紀子、松村 豊、三島耕二、目次隆志、持田隆志、森山 恭、山岡晴夫、山崎一枝、山崎道弘、山田悠紀子、山本昌子、米原夕美子、若林俊樹、和崎正美
工芸	吾郷江美子、石村 稔、犬山卓也、内田和秀、藤間 寛、長岡住右衛門、濱田幸介、福郷 徹、正木 潤、松浦弘美、松本三千子、渡部良和
写真	青戸 繁、井上健治、川本貢功、小林茂雄、佐々木聡、藤原静雄、吉崎佳慶、川上泰正、品川 功、田中利博、西尾 透、松谷敏秀、三加茂幸子、渡辺正史
デザイン	石野 眞、寺尾 堂、近藤 隆、平江 透、遠藤 毅、小原恭子、秋國紋子、稲田通子、内田京子、奥美奈子、春日謙一、品川良樹、玉木喜久代、柳楽武臣、錦織秀行、野々内政美、原 真人、山川房子、代高田由梨
彫刻	伊藤眞美、近田裕喜、田中俊晞、松本健志、山岡弘廸

日本画

応募点数	37点	招待作品	11点
入賞点数	7点	展示点数	48点
入選点数	30点	◎は移動展出品作品	

(総評) ここ数年、閉塞感をもたらしたコロナも今年五類へと移行し、日常も平時に戻って来ました。それに伴い生じた心の余裕は、芸術への渴望感として、爆発し始めたように感じます。

また、生成AIの出現により、美術にも大きな影響を及ぼしています。「AIの独特の美的感覚と日本画は共創出来るのか。」「対極で傍観し合うのか。」ぼんやりと、新たなフレーズの日本画の兆しを感じるどころです。しかし、手間暇かかる制作工程でしか味わえない醍醐味や達成感、AIでは決して体感出来ない制作者の特権的な喜びだと思います。一筆一筆に込める思いの尊さを再認識し、大切にして欲しいと切望します。

さて、今年日本画部門の出品数は前年度とほぼ同数で、初出品三点を含む一般二十八点、会員九点、招待十一点を出品頂きました。猛暑の夏、残暑厳しい秋を通して制作に挑まれた出品者の皆様に心より敬意を表します。今年の傾向はオリジナリティー溢れる作風で、充実した作品が多数見受けられました。感動を昇華し、自分の表現方法で日本画材を駆使して制作されています。より強い主張で感動を表出された作品が入賞の鍵となっています。

近年、島根県の日本画人口は減少傾向にありますが、本展が日本画への興味、関心を深めて頂ける場となりますことを心より願っています。

(文責 吉岡 珠恵)

知事賞 ◎

うつる

黒田育子 (出雲市)

雨の中の自転車、みんなが一度は経験のある題材になっています。

特に良いのは硬い自転車のフレームと少年の濡れたズボンの質感の違いの表現は素晴らしいものがあります。そして黄色のスニーカーもアクセントになり、この作品を引き締めているところはさすがだと思います。

工夫の余地があるとすれば下方の水溜りの表現はもう少し変えてみても良かったのかなと感じています。

(文責 小村 俊美)

金賞 ④

せい
静

の 野 津 恵 子 (松江市)

背景のエスニックな柄と色の中に、穏やかな表情の母子とが一体化して美しく描かれています。背景の柄の塗り方も、何色もの絵の具を重ねていますが、濁ることなく美しい色のコントラストで描かれ、人物の表現も的確に描かれています。顔や髪に使われている黄色系の岩絵の具が発色を良くし、美しい日本画絵の具の混色に成功しています。そういうテクニックが作品の空気感を一段と高めていると思われます。

(文責 東野布由美)

銀賞 ④

ぎん が
銀河

いな むら まさ し
稲村正志 (出雲市)

その名も「銀河」というあじさいを、本物の銀河になぞらえた、洒落のきいた作品です。

あじさいの円盤形を画面の四辺に対し斜めに傾け、更に奥から手前へ、紫の小花（正しくはがく）が回転してとび出す構成は、大らかで軽快な動きを感じます。

ひとつひとつの小花の形も的確で、線のシャープさが魅力です。

ほぼ水干絵具だけで仕上げている為、色彩の浅さと、背景の青のニカワの浮きとが、惜しまれます。

(文責 三島 京子)

銀賞 ④

かい かん まえ
開館前

はら まゆ み
原真由美 (出雲市)

県立美術館のロビーを切り取られた作品。シンプルな配色で画面が構成されています。開館前の朝の清々しい空気感を、柔らかなタッチと色彩で描かれ作者の思いが色彩の奥から伝わってくる。画面下方にはボカシが施され広がり余韻が創り出されています。

少ない色彩でありながら、存在感が表現されているところがこの作品の魅力になっています。

(文責 福間小夜子)

銅賞 ④

しょうじょう そう
猩々草

いの うえ とも こ
井上智子 (松江市)

まずは中心に大胆に配置された円の中の花に目を引かれます。その中には、夏に咲くポインセチアの猩々草が色鮮やかに丁寧に描いてあります。盛り上げの絵具を使って背景に入っている幾何学模様にも変化があり、観ていて楽しい気持ちになります。斬新な構図に挑戦された勇気を讃え、今後ますますの発展を期待しています。

(文責 森脇 純子)

銅賞 ④

妖艶

恩田 ゆき子 (奥出雲町)

本作は画面全体に、キツネノカミソリがさわやかな初秋の色彩で丁寧に描き込んであります。この花の花言葉は「妖艶」まさに画題名です。夕暮に咲くこの野草の神秘的な不思議な魅力が伝わって来ます。日本画の基礎に裏付けされた的確な描写力と大胆な画面構成、周辺部のボカシが画面の奥行と広がりを感じます。朱色の花々を上品な色彩で描き、丸いオシベが画面を引締めた秀作です。

(文責 大森 幹雄)

銅賞 ④

昇華～命

古森 和代 (浜田市)

暗い画面の中ですが、何かが、上へ上へとごめきながら、昇っているかんじです。目を凝らすと、目があり瞳があり、太い綱は神楽の蛇腹に見え、ワラのような物は、たち昇る炎のように感じます。

作者はいったい、どこにいるのでしょうか。昇華を外から見つめつつ、エールを送っているのか、あるいは、作者自身、昇華しつづける中心にいるのでしょうか。少ない色、黒を基調とした色で、感情を表した姿勢に勇気をもらいました。

(文責 村上ななほ)

入選

	題名	氏名	備考
④	袴り	児玉 美智子 (益田市)	会員
	ひまわり	松原 安杏 (松江市)	会員
	想う	井上 櫻子 (松江市)	会員
④	微睡む	渡 麻矢 (大田市)	会員・日本画協会会員賞
④	夜明け前	福間 美智子 (出雲市)	会員・日本画協会会員賞
	爛漫	原 邦子 (出雲市)	会員
	予感	佐々木 勉 (松江市)	会員
	優磨3年生	佐藤 さゆみ (出雲市)	会員
	高砂ユリ	松下 純子 (出雲市)	会員
④	ほっこり地蔵	村岡 万子 (山口県)	
④	旅のいやし	大石 照子 (益田市)	
	くつろぎ	岩崎 隆 (松江市)	
	あっみつけた	荒川 浩子 (松江市)	
	たそがれどき	村上 純子 (松江市)	日本画協会新人賞
	ゴジラの背 (大山)	勝部 珠實 (出雲市)	
	ハイドアウト	荒川 ゆかり (安来市)	日本画協会奨励賞
	たたら幻想	北脇 豊史 (出雲市)	
	讃花	岸 静子 (出雲市)	

題名	氏名	備考
月の宴	有田 秀子 (出雲市)	
その先に	引野 春雄 (出雲市)	
老樹	金乗 智子 (松江市)	
曼珠沙華	菅野 あい子 (松江市)	
軌跡	飯塚 眞治 (出雲市)	
群がる	野田 隆司 (松江市)	
宿命	宇田川 京子 (奥出雲町)	
待宵	千原 優子 (奥出雲町)	日本画協会奨励賞
酔花	目黒 誠津子 (奥出雲町)	
月花美人	塚本 治代 (奥出雲町)	日本画協会賞
恋しき桜	藤原 久枝 (安来市)	
ゆれる	榎野 寿衣 (出雲市)	無鑑査

招待

	題名	氏名	備考
	集る	吉岡 珠恵 (松江市)	
	雲州平田船川 (木綿街道)	小村 俊美 (出雲市)	
	菖蒲苑	大森 幹雄 (出雲市)	
⑩	馨香	東野 布由美 (出雲市)	
⑩	遊ぶ	福間 小夜子 (出雲市)	
	羽音	森脇 純子 (出雲市)	
	女	三島 京子 (松江市)	
	彩り・里	村上 ななほ (松江市)	
⑩	窓辺	米原 ひろこ (出雲市)	
	共生	広田 あつ子 (安来市)	
	寒牡丹	安部 富男 (松江市)	

書

応募点数	124点	招待作品	21点
入賞点数	7点	展示点数	145点
入選点数	117点	◎は移動展出品作品	

(総評) 古代中国において、実用から生まれた漢字が時代とともに愛されてきた。また、日本に渡来してからは美しい文字を書く能書家によって平仮名も誕生して「国風文化」として大変盛り上がり現在に至っている。書は幼年から熟年まで年齢幅の広い重要な文化となっている。

最近の基本となる「漢字」と日本で生まれた「かな」を原点として、それに基づいて現代書が生まれ・3部 近代詩文・4部 大字書・5部 前衛書など多様に展開している。10年前から始まったニューホープ部門にもたくさんの出品があり、内容も充実して素晴らしい。

今回展は、現代書の分野に発想豊かで響きのある作風が見聞され今年も楽しい展覧会となった。

(文責 山崎 銀川)

知事賞 ◎

とろ
瀨

つち え ひろし
土 江 博 (大田市)

重厚な線で静かに入筆し、徐々に穂先をきかせてスピードをかけながら、最後は一気に息を吐き出すように筆を運んでまとめた。変化に富み、清らかな中にも深みのある快作である。

(文責 飯田 徹)

金賞 ◎

このゆふべ

すみ ゆう しゅん
角 裕 舜 (松江市)

美しい料紙に文字の大小の変化、直線的な筆脈で書き上げられた快作である。

(文責 長浜 晴風)

銀賞 ◎

そとうばし
蘇東坡詩

はま むら あい か
浜 村 藍 香 (雲南市)

筆者が想像した情景を胸に強靱な線で一気に書かれ白黒のコントラストも見事な明るい作である。

(文責 室下 景雲)

銀賞 ④ **みすゞの詩** まつ もと けい せん 松本圭仙 (松江市)

中心に「獨樂の實よ」を大きく据え、前後に添え字を配置した立体感のある構成が成功した。墨量の変化、鍛錬された線が魅力的な佳作である。

(文責 山本 英雲)

銅賞 ④ **最** みち した さわこ 道下佐和子 (浜田市)

構図がどっしりと安定している。下部の墨痕から飛び出した球体が、愛らしい動きを見せこの上ない何かが誕生した神秘を感じる。

(文責 中尾 弘子)

銅賞 ④ **十二月帖** じゅう に がっしょう もり した さ わ 森下沙和 (浜田市)

王献之の臨書。連綿体の表現を巧みに書き上げた力作。特徴を生かし、深くて渋い線、渴筆の効いた線、種々な表現力で流れもよく見事に仕上がっています。

(文責 戸津川政世)

銅賞 ④ **波** なみ ひら た みほこ 平田美保子 (大田市)

墨色良く、構成と躍動感に富み、日本海の荒波を感じさせる気力溢れる作品に仕上がっている。

(文責 三谷 雄喜)

入 選

「第1部 漢字」

	題 名	氏 名	備 考
	王維詩	梶 谷 真 由 (出雲市)	島根書道会特選
④	争坐位文稿	山 藤 治 枝 (浜田市)	島根書道会特選
	雁塔聖教序	松 本 颯 生 (大田市)	島根書道会特選
	文皇哀冊	吉 田 みのり (松江市)	島根書道会特選
	祭姪文稿	錦 織 美 貴 (雲南市)	島根書道会特選
	十七帖	藤 原 明 美 (大田市)	島根書道会特選
④	李嶠詩	樋 野 不二子 (浜田市)	島根書道会特選
	中秋帖	今 井 真 由 (出雲市)	島根書道会特選
	離洛帖	今 代 淳 子 (浜田市)	島根書道会秀作

題名	氏名	備考
静夜思	山平孤舟(浜田市)	島根書道会秀作
張遷碑	水津佳奈子(益田市)	島根書道会秀作
大唐三蔵聖教序	山内富紀子(大田市)	島根書道会秀作
蘭亭叙	西川溪石(雲南市)	島根書道会秀作
温泉銘	柿木和子(雲南市)	島根書道会秀作
書譜	永見麗月(雲南市)	島根書道会秀作
論経書詩	西田杏奈(浜田市)	島根書道会秀作
伊都内親王願文	工藤利恵(浜田市)	島根書道会秀作
温泉銘	高橋真知子(江津市)	島根書道会秀作
喪乱帖	伊藤汀女(大田市)	島根書道会秀作
曹遷の詩	藤原八代美(雲南市)	島根書道会秀作
追尋傷悼帖	山本波留(大田市)	島根書道会秀作
史晨後碑	野津円(隠岐の島町)	島根書道会秀作
詩書思	岡田恵子(浜田市)	島根書道会秀作
十七帖	土江清夫(雲南市)	島根書道会秀作
適奉帖	石川翠(益田市)	島根書道会入選
清晏帖	木村優子(浜田市)	島根書道会入選
忽恵帖	三谷和子(大田市)	島根書道会入選
楽毅論	若槻栄子(雲南市)	島根書道会入選
伊都内親王願文	遠藤美佐子(大田市)	島根書道会入選
張猛龍碑	道下佐和子(浜田市)	島根書道会入選
集字聖教序	和田由実子(大田市)	島根書道会入選
張季明帖	亀山桂月(雲南市)	島根書道会入選
争坐位文稿	赤名真紀(雲南市)	島根書道会入選
乙瑛碑	錦織清峰(雲南市)	島根書道会入選
争坐位文稿	別所俊香(雲南市)	島根書道会入選
李嶠詩	小出登志子(浜田市)	島根書道会入選
黄州寒食詩跋	竹田佑季子(浜田市)	島根書道会入選
枯樹賦	佐々木結花(浜田市)	島根書道会入選

「第2部 かな」

月をこそ	柿木智香(出雲市)	島根書道会特選
うまおひの	米田照蘭(奥出雲町)	島根書道会特選
月をこそ	石田遥華(出雲市)	島根書道会特選
しつ可尔毛	郷原華江(出雲市)	島根書道会秀作
鶴の影	池尾武(松江市)	島根書道会秀作
山かげの	佐藤晴空(松江市)	島根書道会秀作
竹林や	野村八重野(浜田市)	島根書道会秀作
ひむがしの	石川翠(益田市)	島根書道会秀作
我が園に	大島由紀(大田市)	島根書道会秀作
いち早く	宗近惺月(江津市)	島根書道会秀作
天地のいづ	錦織君子(雲南市)	島根書道会入選
天の海に雲	森山明美(出雲市)	島根書道会入選

題名	氏名	備考
み山路や	松本喜久恵(浜田市)	島根書道会入選
晩秋に	山本照江(松江市)	島根書道会入選
波しろき	庄司里美(松江市)	島根書道会入選
わがこころ	畠山千鶴(松江市)	島根書道会入選

「第3部 近代詩文」

正岡子規の句	大井智子(雲南市)	島根書道会特選
人生の扉	赤木友美(松江市)	島根書道会特選
佳祐の詞	渡部如英(奥出雲町)	島根書道会特選
小川軽舟の句	藤井佳恵(出雲市)	島根書道会秀作
一瞬に生きる	山根蒼雲(松江市)	島根書道会秀作
スサノオノミコトのうた	宮永草凜(松江市)	島根書道会秀作
汀夢の句	福田茜丹(松江市)	島根書道会秀作
吉田鴻司の句	三島文江(出雲市)	島根書道会秀作
骨の鮭	竹内彩葉(松江市)	島根書道会入選
喜久の詩	石倉光旭(松江市)	島根書道会入選
不動の大地	山崎星水(松江市)	島根書道会入選
半夏生	松本さなえ(松江市)	島根書道会入選
満天の星	宮廻美月(松江市)	島根書道会入選

「第4部 大字書」

承	松浦桂子(大田市)	島根書道会特選
織	山崎留美子(大田市)	島根書道会特選
美	笠井康博(大田市)	島根書道会特選
龍	松浦順子(大田市)	島根書道会秀作
是	田中美紀(大田市)	島根書道会秀作
遠	松浦益子(大田市)	島根書道会秀作
碧	飯田啓介(大田市)	島根書道会秀作
耕	三谷耕司(大田市)	島根書道会秀作
夢	谷口陽子(大田市)	島根書道会秀作
達	山根京子(大田市)	島根書道会秀作
歩	石橋裕佳(松江市)	島根書道会秀作
妙	竹下妙子(大田市)	島根書道会入選
新	郷原舞衣子(大田市)	島根書道会入選
暁	黒瀬香緒利(大田市)	島根書道会入選
歌	高橋かをる(大田市)	島根書道会入選
露	田儀節子(大田市)	島根書道会入選
慎	竹下良子(大田市)	島根書道会入選
無	福田知子(大田市)	島根書道会入選
根	松本颯生(大田市)	島根書道会入選

「第5部 前衛」

② SON	塩月智香子(浜田市)	島根書道会特選
-------	------------	---------

	題名	氏名	備考
	信	大草明美(浜田市)	島根書道会特選
	創	佐野博子(大田市)	島根書道会特選
	かい	山崎重子(浜田市)	島根書道会特選
⑩	支	西田洋子(浜田市)	島根書道会特選
	ha	樋野不二子(浜田市)	島根書道会秀作
	楽	三宅摂美(浜田市)	島根書道会秀作
	ユウ	山根里美(浜田市)	島根書道会秀作
	気	江川由美子(益田市)	島根書道会秀作
	粧	左田野倫(浜田市)	島根書道会秀作
	悲歌	志田尾飛斗(東京都)	島根書道会秀作
	ちょう	井上範子(浜田市)	島根書道会入選
	芳	原納芳道(益田市)	島根書道会入選
	飛	石原真紀子(出雲市)	島根書道会入選
	ひつ	宮本綾子(浜田市)	島根書道会入選
	縁	中谷聡恵(浜田市)	島根書道会入選
	剪	梅田賀千(江津市)	島根書道会入選
⑩	貞	佐々木弘子(浜田市)	物故者

「ニューホープ部」

⑩	爨宝子碑	坂井虹乃(浜田市)	島根書道会ニューホープ賞
⑩	芳	岡美沙希(大田市)	島根書道会ニューホープ賞
	風	釜田哲心(大田市)	島根書道会ニューホープ賞
	秋草の	須古星優馬(浜田市)	島根書道会ニューホープ賞
	蘭亭叙	松林花恋(雲南市)	島根書道会ニューホープ賞
⑩	魏靈藏造像記	山平悠斗(浜田市)	島根書道会ニューホープ賞
	深遠な知識	石倉葉月(松江市)	島根書道会ニューホープ部特選
	紗	平田心愛(大田市)	島根書道会ニューホープ部特選
	木簡	山本彩永(浜田市)	島根書道会ニューホープ部特選
	輝	中村蓮花(大田市)	島根書道会ニューホープ部秀作
	白魚の	山崎沙緒(江津市)	島根書道会ニューホープ部秀作
	照	黄金崎千畝(美郷町)	島根書道会ニューホープ部奨励賞
	海	三谷紗(大田市)	島根書道会ニューホープ部奨励賞

招待

	題名	氏名	備考
	鶴わたる	秋國錦雲(松江市)	
⑩	白川淑の詩	吾郷純子(出雲市)	
⑩	子路有聞	浅野江涯(江津市)	
	杜甫詩・酒句	足立瑠泉(松江市)	
⑩	熱	飯田徹(大田市)	
⑩	やや寒み	小川南(浜田市)	

	題名	氏名	備考
⑩	雪月花	山藤耕子 (江津市)	
	野口米次郎の詩	角折和夫 (雲南市)	
⑩	楽天知命	戸津川政世 (浜田市)	
⑩	しゅ	中尾弘子 (浜田市)	
	寒椿	長浜晴風 (出雲市)	
⑩	笄を	野上昭子 (浜田市)	
⑩	的	眞鍋智浩 (浜田市)	
	祐	三谷雄喜 (大田市)	
⑩	秋夜	室下景雲 (雲南市)	
⑩	霊隠寺	矢研田節子 (江津市)	
⑩	魚戯	山崎銀川 (大田市)	
⑩	勇気をもって	山本英雲 (松江市)	
⑩	凧希	吉村清雲 (益田市)	
	溢	渡辺玄海 (松江市)	
⑩	遺作	佐々木龍雲 (益田市)	物故者

洋画

応募点数	84点	招待作品	43点
入賞点数	7点	展示点数	120点
入選点数	70点	移は移動展出品作品	

(総評) 応募点数はここ数年100点前後で推移していましたが、今回は残念ながら若干減少しました。

出品人数はほぼ例年並みでしたので、2点3点などの複数出品の方が少なくなったことが影響したと思われ、ひと昔前の複数出品者数のことを考えるとやや寂しい思いがしました。

ただ、その中でも初出品の方が19名と全体のほぼ4分の1を占めており、底辺の広がりを感じられて、今後につながる明るい兆しと思われました。

そして、多くの出品者の方々が県展を目指して、時間をかけ誠実に制作に取り組まれたことが審査からうかがえ、とても心強く感じました。

さて、知事賞以下この度受賞された7名の作品は、テーマ、構成、配色など自己表現のための懸命な努力が見える質の高いものとなっており、今後の活躍が大いに期待されるものでした。

また、7つという限られた数の賞のため、惜しくも受賞を逃された作品の中にも魅力的な力作、秀作が多くあったことを付記し、来年の出品を審査員一同楽しみにしているところです。

それでは、厳正な審査を経て入選された作品77点に加えて、招待作品43点の総数120点をゆっくりとご鑑賞ください。

(文責 杉谷 俊一)

知事賞 移

しん
侵

たに ぐち まいこ
谷 口 麻衣子 (大田市)

タイトルの「侵」から、作者の心理を描いたものと思われる。現代社会を生きる女性を取り巻く諸々の葛藤が伺える。

割れたガラスの明暗を効かせた表現がとてもシャープで、見え隠れする人物との動きのある構成となっている。白と黒のコントラストに透明色を重ねて、しみじみとした色調を獲得している点も魅力である。

初出品での最高賞受賞と聞く。今後の展開を大いに期待したい。

(文責 北本 雅己)

金 賞 ⑨

あいびょうか ゆめ
愛猫家の夢

ひらのきよ 世 (松江市)

猫と私をモチーフにした作品です。

画面の大部分を占める猫とその猫に身を委ねる私。まさに題名のと通りの愛猫家の心情がよく描かれています。

バックの空間を思いきり簡素に仕上げているのも、この絵のもうひとつの主題である夢の世界を印象づけるのに役立っています。また、大好きな猫の顔を描かなかったことも絵として成功していると思います。

これからも描きたいものをどう具現化していくのかを大切にして模索し続けて欲しいです。次回作にも期待しています。(文責 若林 俊樹)

銀 賞 ⑨

ちんじゅ
鎮樹

いとう はるか
伊藤 遥 (松江市)

鎮守神を祀った神社の森だろうか、凜とした静かで荘厳な空気を感じる作品です。

森の中で柔らかな光があたり、ほのかに浮かぶ樹木の表皮の描写は緻密で高い技術力を感じます。苔や木々の緑も吟味された色で、皮が剥がれた部分の色とのバランスが非常に優れていて美しいです。

構図的に木が少し真ん中すぎて画面が動きづらいのが唯一の残念なところですが。

この描写力を生かし、次の素晴らしい作品が生まれるのを楽しみにしています。

(文責 春日 裕次)

銀 賞 ⑨

Dream

おがさわら みのる
小笠原 稔 (松江市)

散りばめられたユーモラスな形の数々。まるで創造の泉からあふれ出したものたちが勢いのまま画面上を埋めつくしたようです。小難しい構図やバランスといった概念をくつ返すほどのセンスに脱帽です。動物、魚、建物、そして人物…。表情は驚きと笑いにあふれ平和を象徴しているように思えます。今、世界の人たちが、こんなに楽しくカラフルに生きられれば、きっとだれもが幸せになれる。そんな「Dream」を感じました。(文責 山岡 晴夫)

銅 賞 ⑨

あくた ぼうれい きおく ないほう
芥の亡霊は記憶を内包して10/13.07:23

いのまた さとる
猪俣 悟 (松江市)

シックな色違いと活達なストロークが魅力的な作品である。スマートフォンの普及、SNSの影響力の増大、今日では生成AIが身近な生活に影響力を及ぼすようになってきている。刻々と変化するいまをどのように切り取っていくのか、時代と真摯に向き合い、それを作品と言葉でいかに表現できるかが勝負どころ。具象にこだわる福田美蘭は敬愛するステラの作品を「見る者に自由自在な想像解釈を促す曖昧性と豊かな余地を残した絵画」と評している。(文責 田中 敬二)

銅賞 ⑩

おも
懐うよし かわ かず き
吉 川 和 樹

農作業の手を休め、地面に坐る婦人。作業帽の縁に隠れ、表情を窺い知る事は出来ないが、淡々とした日常生活の中で、ふいに訪れる心の翳りの様なものが強く印象づけられる。婦人の体、地面、ビニールハウスに当る虚ろな光が、婦人の心理にシンクロして鑑賞者に訴えかけてくる。

しっかりと重ねられた下層塗りによるテクスチュア、上層に施こされたグレースによるデリケートな階調表現など、描写力も優れている。(文責 佐田 尚穂)

銅賞 ⑩

IMAGINE

かな や みのる
金 谷 実 (益田市)

雪原を左から右に行進する7名の人々が横長の画面に配置されている。描かれている人物が皆一様に目を閉じ、口元を引きしめ、手足の動きも極力少なくした静かな世界。版画を思わせるモノトーンで構成された表現と相俟って、鑑賞する者の想像をかき立てる作品である。(文責 金築 秀俊)

入 選

題 名	氏 名	備 考
marine	日 野 陸 (出雲市)	
高野奥之院大杉	木 下 八千代 (京都府)	
紅ゆる山みち	金 築 克 郎 (出雲市)	
紅葉狩り滝	周 藤 春 樹 (出雲市)	
30年前の知床五湖/形見となった恩師あて進呈作	宍 戸 紀 文 (松江市)	
サム来	村 上 かおり (美郷町)	
夜の湾岸線	坂 井 市 (美郷町)	
波のおと	黒 田 久仁子 (松江市)	
カサブランカ	陶 山 本 子 (雲南市)	
牛突き	平 木 千 秋 (海士町)	
成	松 島 加 奈 (松江市)	
見つめる	伊 藤 綾 香 (出雲市)	
美保関灯台	津 森 敏 (松江市)	
収穫	山 根 早 苗 (雲南市)	
以前、彼は花だった	鷺 野 奈 緒 (安来市)	
自衛するトマト売り達(エジプト)	山 田 美 鳥 (大阪府)	
環	太 田 小百合 (鳥取県)	
燈よ永遠に	渡 部 陸 浩 (松江市)	
SAKURA	安 野 詩 能 (大阪府)	
⑩ 水尻川夕景	福 島 賢 二 (江津市)	
季節は流るる	小 畑 敬 子 (雲南市)	
弁慶島	森 脇 圭 子 (松江市)	

題名	氏名	備考
湘南の蒼い記憶	錦 織 透 (松江市)	
茅畑の里	門 脇 豊 (松江市)	
海の聲がきこえる	山 崎 智 美 (大田市)	
初夏の庭	非 々 玲 子 (川本町)	
⑩ 球場を見守る星高山	窪 田 加津子 (江津市)	
農家の庭先	柿 田 周 直 (大田市)	
⑩ 姫逃池	萬 田 みち子 (浜田市)	
⑩ 雪の漁村	佐 藤 健 (松江市)	
義経と静御前	梅 木 美 鈴 (奥出雲町)	
木漏れ日	安 達 巖 (松江市)	
半島の港	山 本 百合子 (松江市)	
生命 I	吉 岡 さつき (安来市)	
故郷の山河	高 見 秋 彦 (松江市)	
都会の静寂	田 辺 明 光 (松江市)	
⑩ 多様性、ここにも？	須 山 留実子 (松江市)	
凍てつく川沿いの街	石 川 修 夫 (出雲市)	
惜別	落 合 正 和 (松江市)	
⑩ 春	篠 田 巧 (松江市)	
海	熊 谷 健 (松江市)	
garden	荒 木 志 穂 (松江市)	
春の海 一夕刻一	伊 藤 遥 (松江市)	
戀山	川 口 麗 奈 (鳥取県)	
命の水	古 曳 小夜子 (安来市)	
⑩ Fun City	藤 井 早 苗 (松江市)	
⑩ 新春の願い	天 野 勝 則 (江津市)	
輪郭	山 崎 梨 央 (松江市)	
泡沫の夢	平 本 結 楽 (松江市)	
トランプ大暴走	稲 村 優 雅 (松江市)	
夕さりの濱	杉 本 啓 子 (出雲市)	
碕の夕景	古 谷 幸 憲 (大田市)	
花笑む	横 山 恵 子 (松江市)	
悠久	中 井 敏 夫 (松江市)	
青の人	塩 川 はるみ (松江市)	
モデル	池 尻 都 (松江市)	
旅情	正 國 享 子 (松江市)	
クラウン I	佐 藤 茂 雄 (松江市)	
キャンディマン	永 原 陽 子 (松江市)	
練習	來 海 豊 (松江市)	
法起寺遠望 (斑鳩の里)	西 村 仁 伸 (松江市)	
祈り	柏 原 ゆ か (松江市)	
バイヨン	古 浦 紀 枝 (松江市)	
小屋のある風景	岡 本 君 枝 (松江市)	
松江だいすき	間 庭 喜美江 (松江市)	

題 名	氏 名	備 考
ここに泉あり	赤 木 和 子 (安来市)	
風の盆	平 井 伸 一 (松江市)	
参詣道	舟 木 孝 義 (松江市)	
レクイエム	長谷川 智 (安来市)	
水辺の家	宮 脇 幸 雄 (松江市)	

招 待

	題 名	氏 名	備 考
⑩	ひとり	北 本 雅 己 (出雲市)	
⑩	動先	春 日 裕 次 (出雲市)	
⑩	ボクサー	金 築 秀 俊 (出雲市)	
⑩	ガラスの詩	永 尾 和 子 (浜田市)	
⑩	研究室	川 上 浩 平 (出雲市)	
	一隅	藤 本 雄 二 (雲南市)	
	扉	田 部 明 芳 (雲南市)	
⑩	時	近 藤 隆 夫 (浜田市)	
	遊	高 橋 健 一 (松江市)	
	想	岡 田 敏 幸 (出雲市)	
⑩	春のモミジ	大 道 愛由美 (浜田市)	
	ジャグラー	有 田 千賀子 (大田市)	
⑩	初夏の日差しの中で	河 上 晴 夫 (浜田市)	
⑩	令和阿修羅像	佐 田 尚 穂 (益田市)	
	大山晩秋	塩 野 毅 (雲南市)	
⑩	白露	杉 谷 俊 一 (松江市)	
	Re-diary 2023	田 中 敬 二 (大田市)	
	貝たち (HiBiKi)	田 邊 二 枝 (松江市)	
	風景	常 松 育 夫 (大田市)	
	秋景	鶴 原 勲 (出雲市)	
	メロディ	豊 島 美智恵 (松江市)	
	秋桜	中 島 啓 子 (松江市)	
	漂流	仲 西 嗣 雄 (安来市)	
	行者の場	原 昌 之 (出雲市)	
	自然観察	二 岡 みえこ (安来市)	
	My Circuit	藤 原 房 子 (松江市)	
	生命	堀 江 陸 子 (奥出雲町)	
	風の行方 —2023—	前 島 由紀子 (松江市)	
⑩	冬の中洲	松 村 豊 (松江市)	
	土の人	三 島 耕 二 (松江市)	
⑩	軌跡 (生命の理)	目 次 隆 志 (松江市)	
⑩	ふたり	持 田 隆 志 (出雲市)	
	カミアリツキノヨル	森 山 恭 (出雲市)	
⑩	風のかたち23-2	山 岡 晴 夫 (出雲市)	

題名	氏名	備考
わたしはわたし	山崎 一枝 (安来市)	
室内	山崎 道弘 (安来市)	
華嵐	山田 悠紀子 (松江市)	
散歩	山本 昌子 (松江市)	
白いモンスター	米原 夕美子 (松江市)	
漁村	若林 俊樹 (松江市)	
⑩ Deeply touch	和崎 正美 (益田市)	
愛と怒り	近藤 顕 (安来市)	
伝承	中村 百合枝 (安来市)	

工芸

応募点数	56点	招待作品	19点
入賞点数	7点	展示点数	64点
入選点数	38点	◎は移動展出品作品	

(総 評) 審査会場に入るとまず色鮮やかなちぎり絵の数々が目に飛び込んできました。明るい雰囲気期待が高まりました。

今年は、一般応募56点のうち、審査員の投票と慎重な審議により11点が選外となり、入選45点のうち7点が優秀賞に選ばれました。招待作品19点を加え、64点が展示されます。鳥根県展工芸部門の特徴は、バリエーションに富んだ作品が多数見られることで、工芸部門で本当によいのだろうかと審査員を悩ませる作品もありますが、固定観念にとらわれず、工芸の裾野を広げ、何かそこから新しい表現が生まれてくるかもしれないという将来性を鑑み、作者それぞれの思いをくみとる審査を心がけました。

いくつか印象に残ったものを挙げると、応募点数が一番多い陶芸では昨年続き、高校生2名が新人賞に選ばれました。使い勝手のよさそうなカップ&ソーサーは手に取った時の重みや厚さがほどよく、丁寧な作りに感心しました。かたや89歳のベテランも健在で、高さのある細口の壺にバランス良く配されたデザインが若々しく好感が持てましたし、県展常連の方々もそれぞれに造形や文様に工夫が見られ、充実ぶりが窺えました。染織からは2点、人形からは1点の優秀賞が選ばれ、染織の山内さん、人形の上野さんは昨年が続いての受賞で、一年の研鑽の成果が見られました。七宝は初出品の加田さんが受賞、基礎がしっかりとし、丁寧な仕事ぶりが評価されました。和紙によるちぎり絵作品は目を楽しませ、会場に彩りを添えてくれました。絵画との違いは何か、ちぎり絵にしかできない表現、和紙の特性がより活かせる表現は何か、現状に満足せず、素材に対してもっともっと踏み込んで行ってほしいところです。

プロになると県展を離れてしまう、という声も聞かれました。県展の充実のためにはぜひ積極的に出品していただきたいですし、審査員等招待作家の方々が力ある作品を示されることで県の工芸界を牽引されることを願います。運営にあたる県工芸連盟の皆様のご尽力に敬意を表します。

(文責 福富 幸／岡山県立美術館副管理者学芸課長事務取扱)

知事賞 ④

ほし
空に

ぎん
銀

む
夢 (出雲市)

初出品で堂々の知事賞受賞となりました。手彫りガラス（グラスリッツェン）という技法で、針先がダイヤモンドの道具を使って、既存の花器を利用した大きな半球状のガラスの裏表にそれぞれ異なる絵を描いています。ガラスに厚みがある分、奥行き感が生まれ、動いて見ると角度によって絵の重なりが違って見え、より幻想的でなにか物語が展開するようです。丁寧に根気強い手仕事と素材であるガラスの透明感を生かした作品です。（文責 福富 幸／岡山県立美術館副管理者学芸課長事務取扱）

金賞 ④

きぬ し ふ よ こが す り お び じ き か お
絹紙布緯緋帯地「樹の香りがした」 やま うち
山内 ゆ う

昨年とは趣向を変えて、経糸に草木染めした絹糸を使い、緯糸には石州和紙を繕って作った細い細い糸を織り込んでいます。立涌文様をアレンジしたような動きのある緋模様が斜めにデザインされており、近寄って見ると思いのほか、多彩な色が使われていることがわかります。薄くて軽く、しなやかな紙布に落ち着いた絹の光沢が上品さを醸しています。意欲的に制作に励んでおられる様子が窺え、一作一作、技術や工夫が自身の血と肉となることでしょう。次作が楽しみです。

（文責 福富 幸／岡山県立美術館副管理者学芸課長事務取扱）

銀賞 ④

し そ わ し ば り し ゅ ん こ う
紙塑和紙貼「春光」

う え の ゆ き み
上野 幸美 (出雲市)

神話の国、出雲ならではの作品だと思います。彼女は、神話に出てくる、いなさの浜をおとずれたそうです。海は穏やかで、神事がなされ、やさしい風が吹き、海がキラキラ、光っていたそうです。本人も気づかないうちに、神の形を見たのかも知れません。作品を作る時は、その土地を訪れる事は、とても大事です。これからは、深く感じ取った事を、自分らしく表現する力を養って下さい。

本日は、おめでとうございます。

（文責 吾郷江美子）

銀賞 ④

ゆう せん し っ ぽ う き く
有線七宝「菊」

か だ き ょ う こ
加田 香子 (出雲市)

七宝の基礎をしっかりと学ばれているこの作品は小さいが存在感がある。

工芸作品を制作するにあたり、細部仕上げまで気を配うのは当たり前のことだが、そんな作品は多くない。しかしながらこの作品は作者が最後の最後まで丁寧に作りあげているのが伝わってくる。中心に配されてある白い菊は細かく折られた銀線のキラキラとグラデーションが美しく又等間隔に配された葉と小さい菊が中心の菊をより一層引き立てている。

（文責 松本三千子）

銅 賞 ③

てつゆうようへんちやわん
鉄釉窯変茶碗

ぐん し たか ひで
郡 司 位 秀 (松江市)

茶溜りは深み、径ともにほどよくあり、お茶の点てやすさを思わせます。口造りは、釉薬を上部のみにとどめた為、口当たりの良さと胴の手ざわりの良さを兼ね備えることに成功しています。又、藍色の釉薬を外すことにより色調の単調さを避けることができ、茶碗の中に星空を思わせるようでもあります。

年の瀬に一服いただきたくなる茶碗でした。

作者の郡司さんの茶碗は幾度の入選、入賞を重ねられていますが、本年は過去の作品と趣も異なりこれからの出品作を更に期待させる受賞作品と感じました。

(文責 長岡住右衛門)

銅 賞 ③

も めんがすり
木綿緋

あお と やす え
青 戸 泰 恵 (安来市)

すっきりとした藍色を背景にして、縦緋と横緋とで構成した抽象的な模様が、歌う様に少しずつ変化してゆく藍染木綿緋織りの着物です。緋模様の変則的なリズムと、うす緑色の縦縞の規則性が相まって、布の魅力になっています。

手紡ぎ木綿の横糸から作者の温かみが伝わってくる秀作です。

(文責 松浦 弘美)

銅 賞 ③

つばきもんそめつけきんさいおおばち
椿紋染付金彩大鉢

あら お く み
荒 尾 久 美 (大田市)

直径42cmの堂々とした大鉢である。

中央に3つの具象化された椿が、女性らしい独特な表現であらわされていて、一見、異国風な雰囲気醸し出している。よくよく見ると細部にわたり配慮がされていて、作者の作品に対する思いが十分に伝わってくる秀作である。

赤土で制作し白土で化粧を施す。そして、素焼き(800度前後)をし染付(絵付け)をしたものを透明釉で本焼き(1,250度前後)をする。そして金彩(上絵)(750度前後)で焼き付けたものである。

金彩、銀彩は時には使い方で、作品が破たんをきたすことがあるが実にうまくコントロールされている。欲を言えば、もう少し染付の量が引き算されていれば、さらに良くなるでしょう。

さらなるご活躍を期待したいと思います。

(文責 犬山 卓也)

入 選

	題 名	氏 名	備 考
	晩秋の宍道湖	平 田 恵 子 (松江市)	
⑩	奥津峡の紅葉	平 田 恵 子 (松江市)	島根工芸連盟賞
	漆黒釉鎚壺	古 川 幸 希 (出雲市)	
	松灰釉壺	長 岡 修 (出雲市)	
⑩	優雅 (エレガンス)	小田川 佳 子 (松江市)	島根工芸連盟賞
	茄子	石 橋 寛 子 (松江市)	
	花器 (五角形竹縁)	岡 義 雄 (松江市)	
	ルリ釉 コーヒーカップセット	須 藤 紅 葉 (松江市)	新人賞
	コーヒーカップセット 夜空	紫 蓮 (松江市)	新人賞
	櫛目入り刷毛目ドラ組鉢	三 島 汎 (飯南町)	
	根付	福 嶋 次 朗 (安来市)	島根工芸連盟賞
	龍上観音図	銀 夢 (出雲市)	
	剣先川の新緑の頃	平 木 光 江 (松江市)	
	竹置筒	石 原 幸 雄 (松江市)	
⑩	櫛拭漆盛器	奥 村 和 久 (松江市)	
	竜溪洞湖面台	松 下 純 子 (出雲市)	
	北原白秋作詞「はるかにひとつ」刻字額	高 橋 成 和 (松江市)	
	紙塑和紙貼「爽」	松 本 輪加子 (松江市)	
	茶碗	森 山 晴 夫 (出雲市)	
	想ふ	鳥 谷 幸 代 (松江市)	
	窯変茶碗	越 野 良 一 (松江市)	
	有線七宝「古代ハス」	加 田 香 子 (出雲市)	
⑩	彩陶壺	山 田 正 彦 (松江市)	島根工芸連盟賞
	八雲立つ・夕暮	内 部 隆 (松江市)	
	黒い花瓶と赤い薔薇	森 山 許 代 (松江市)	
	薔薇	森 山 許 代 (松江市)	
	雨後唱々	福 間 達 也 (出雲市)	
	茶入	藤 井 弘 一 (松江市)	
	陶筥	藤 井 淑 美 (松江市)	
	9 人の人達	組 嶽 博 志 (松江市)	
⑩	墨彩花入 (瓦)	岩 谷 敬 信 (大田市)	
	墨彩花入 (バタフライ)	岩 谷 敬 信 (大田市)	
	望月	松 月 (大田市)	
⑩	備前緋櫛花器	江戸端 実 (大田市)	
	備前緋櫛徳利	江戸端 実 (大田市)	
⑩	茶器		
	茶碗		
⑩	一の砦 茶盃	昇 粕 (江津市)	

招待

	題名	氏名	備考
	出雲焼 茶碗	長岡住右衛門空郷 (松江市)	
	炎彩花入	柳 楽 勝 重 (出雲市)	
	広瀬緋着物「花衣」	永 田 佳 子 (安来市)	
移	水指	犬 山 卓 也 (出雲市)	
	黒柿結び象嵌風炉先	正 木 潤 (出雲市)	
移	紬地型絵染帯	黒 川 裕 子 (江津市)	
移	「辰」香合	福 郷 徹 (益田市)	
移	ほら紹織菱紹生絹着物「湖水夕照」	松 浦 弘 美 (松江市)	
	布張溜塗長方盆 宍道湖マジックアワー	石 村 稔 (松江市)	
	紙塑和紙貼「打水」	吾 郷 江美子 (出雲市)	
	縹縹幾何文香炉	内 田 和 秀 (松江市)	
	檜造拭漆銘々皿	濱 田 幸 介 (松江市)	
移	灰釉花器	荒 尾 浩 之 (大田市)	
移	灰釉鉄線文角皿	螺 山 勝 實 (浜田市)	
移	松造拭漆盛器	村 山 創 達 (松江市)	
移	木綿手紡絵緋着物「早春に結ぶ」	木 下 恵理香 (出雲市)	
移	神代杉象嵌箱	深 田 学 (雲南市)	
	隠岐の杉の箱	渡 部 良 和 (雲南市)	
移	省胎七宝bowl「翔」	松 本 三千子 (松江市)	

写真

応募点数	124点	招待作品	46点
入賞点数	7点	展示点数	167点
入選点数	114点	◎は移動展出品作品	

(総評) 季節外れの暑さが収まり秋らしい清々しい日に第56回島根県総合美術展写真部門の審査を無事に終える事ができまして皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

色々なジャンルの作品が沢山あり驚きました。祭りの行事一つとっても沢山あるのですね。良いシャッターチャンス作品も沢山見受けられました。よく考えてシャッターを押していることも伝わってきました。コロナ禍の影響でしょうか、海外作品がなかったのも時勢を反映していると感じました。残念ながら入賞を逃した作品にも良い作品は沢山ありました。

これから良い撮影シーズンに入ります。皆様、沢山シャッターを切って良い作品お撮りください。入賞の皆様おめでとうございます。そして、ありがとうございました。

(文責 角尾抽臣子／写真家 二科会写真部常任理事)

知事賞 ◎

ちゅうしゅう ゆうぐ 中秋の夕暮れ

おお たに ごうしろう
大谷 剛史郎 (飯南町)

暮れ行く秋の柔らかい光が広大なすすきが原を包み澄んだ空気と共にスケール感を醸し出しています。

佇む人物もポイントになっていて効果を上げていると思います。沈む太陽を見つめる人物にも物語が感じられてとても心に残ります。知事賞おめでとうございます。

(文責 角尾抽臣子／写真家 二科会写真部常任理事)

金賞 ◎

かみ つか 神の使い

さか もと しん じ
坂本 新次 (出雲市)

静かな森の中で神の使いとされる鹿の存在を際立たせた素晴らしい作品です。

鹿が光芒に照らされ、その美しさは際立っています。

作者がこの一瞬のチャンスをとらえ、熱意をもって作品として作り出したことがよく伝わってきます。

このように鹿の優雅さと自然の中での神秘的な雰囲気が表現されたこの作品に、観る人は深く感動されると思います。

(文責 三加茂幸子)

銀賞 ④

じんばいったい
神馬一体

たかなしふみひろ
高梨文博 (隠岐の島町)

隠岐の伝統ある「馬入れ神事」でしょうか…馬も人も跳ねていて、とても躍動感があり、祭りの楽しさが表情に現れています。

当日の天候も良かったこともあり、速いシャッタースピードで、かつ、人物全員がフォーカス内に捉えられています。馬の後馬以外のすべての足が地面から離れています。最高の瞬間です。観客が写っていますが、主題が力強いので、ほとんど気になりません。正に神馬一体です。このようなお祭りは、後継者不足で存続が危ぶまれるご時世ですが、いつまでも伝承されていくことを祈りつつ拝見させていただきました。あえて欲を言えば、足の部分に多少のブレがあれば、申し分なしですが、過去に見た馬入れ神事の中でトップクラスであることは、間違いありません。

銀賞おめでとうございます。今後の力作を期待します。

(文責 小林 茂雄)

銀賞 ④

のりすなお
海苔の砂落とし

ひのてるよし
樋野輝吉 (出雲市)

このたびは銀賞受賞おめでとうございます。

この作品は日常の何気ない作業を撮影されたものだと思いますが、主役の海藻を扱う「おばあさん」の年輪を重ねた顔の表情描写が特に素晴らしく、背景と併せ、生活感あふれるあたたかいモノクローム作品として大変うまく表現されています。

(文責 品川 功)

銅賞 ④

まつあと
祭りの後に

おおたつとむ
太田勤 (松江市)

祭りの後の余韻を伝えるすぐれた心象的な作品となっています。組写真の①鳥居の後のライト、②電柱の光、③ライトに照らされた祭りの道具をかたずける手と、それぞれの光の明るさの違いを活用して、祭りの後のもの悲しい情感を巧みに表現できています。作者の写真技能とセンスの高さに感心しました。

作者のこれからの活躍をととても楽しみにしています。

ご入賞、おめでとうございます。

(文責 佐々木 聡)

銅 賞 ④

おもいで

たち ぼな しん いち
立 花 伸 一 (雲南市)

入賞おめでとうございます。

ペットのワンちゃんでしょうか…スマホによる“ワンショット”がほほえましく、また画面（構図）が山のようになっていることにより、動きがあると同時に安定感も感じられます。

光の扱いも優しく的確で、背景を落とし、単純にすることによって主題が明確になり、見るものに強い印象をあたえます。

見落としがちですが、犬の目がスマホの画面を見ていることによって全体を引き締めています。
(文責 松谷 敏秀)

銅 賞 ④

群飛

おか もと かず ゆき
岡 本 和 幸 (浜田市)

この作品はよく見かける光景ですが、岩と海との色合い、そして大小の岩との構成がバランスよく配置されており、作品全体を引き締めています。

加えて荒波に鳥が飛び立つ瞬間をよくとらえており、これらが風景と調和したスケール感の大きい作品となっています。

この度は銅賞おめでとうございます。

(文責 藤原 静雄)

入 選

入選114作品のうち写真部門実行委員会賞として以下全33点を選定した。

- ・優秀賞（3点）
- ・奨励賞（10点）
- ・特選（20点）

（受賞対象作品は備考欄に記す。また受賞作品以外の入選作品は五十音順で並べる。）

	題 名	氏 名	備 考
⑩	収穫祭（大あしなご祭）	森 本 美恵子（大田市）	優秀賞
⑩	夕映え	森 山 典 雄（大田市）	優秀賞
⑩	天高く	川 上 政 光（出雲市）	優秀賞
⑩	笑たいむ	稲 田 崇（安来市）	奨励賞
⑩	墨付け神事	管 敏 朗（出雲市）	奨励賞
⑩	役目をおえて	岩 田 毅（大田市）	奨励賞
⑩	冬の予感	田 中 作 夫（出雲市）	奨励賞
⑩	簸（ひの）川の夜明け	林 悟（出雲市）	奨励賞
⑩	激走	藤 江 松 男（出雲市）	奨励賞
⑩	夕日の神事	金 崎 操（出雲市）	奨励賞
⑩	栄光の蒸気機関車	藤 原 美枝子（奥出雲町）	奨励賞
⑩	日和雨	武 田 清（雲南市）	奨励賞
⑩	生	佐々木 誠（江津市）	奨励賞
	遊火魂	吾 郷 紘 平（飯南町）	特選
	無我夢中	尾 原 慶 乙（出雲市）	特選
	緊張の初舞	鶴 島 里 子（松江市）	特選
	点火	吉 田 徹（隠岐の島町）	特選
	八雲立つ	長 崎 嘉 暢（出雲市）	特選
	愛馬	木 村 克 己（出雲市）	特選
	おなかすいたね	加 藤 好 子（松江市）	特選
	晩秋の頃	糸 原 輝 幸（奥出雲町）	特選
	波濤の湖	西 上 一 義（松江市）	特選
	大樹の遊び場	勝 部 美智夫（出雲市）	特選
	シーズン到来	坂 本 憲 三（松江市）	特選
	チューリップと恋人たち	原 浩（安来市）	特選
	須々海海岸	児 島 巧（松江市）	特選
	静かな時	佐 藤 伸 二（出雲市）	特選
	夢色の華	細 木 仁（松江市）	特選
	霧の朝	島 本 陸 男（松江市）	特選
	サイドステップ	品 川 清 一（出雲市）	特選
	魚を追うゴイサギ	田 中 修（隠岐の島町）	特選
	出発	藤 原 あや子（松江市）	特選
	線香花火	田 中 康 治（松江市）	特選
	舞子と着付け方	秋 重 学（鳥取県）	
⑩	生き抜く	安 立 聖（大田市）	
	奉納	荒 木 総一郎（鳥取県）	

題名	氏名	備考
晩夕陰力	石井洋子 (飯南町)	
見守る椅子	石川功 (鳥取県)	
ヴィクトリア市場にて	石倉貞昭 (松江市)	
吹鳴の夜明	石倉太介 (出雲市)	
お茶目な彼女	石村貴昭 (松江市)	
里神楽	和泉一朗 (奥出雲町)	
仲良し	伊藤以都子 (松江市)	
春の光の中へ	糸原詩郎 (奥出雲町)	
彩花	岩城篤明	
ならず	牛尾吉郎 (奥出雲町)	
豊作を願って	内田定廣 (奥出雲町)	
師走	遠藤勉 (安来市)	
二人の寒稽古	岡田文夫 (隠岐の島町)	
魚捕り名人	奥村茂 (隠岐の島町)	
世界自然遺産「竹富島」を守る子供達	押柄隆夫 (出雲市)	
一釘入魂	景山利治 (雲南市)	
追憶	勝部幹雄 (松江市)	
みこし押し合い	岸光夫 (出雲市)	
想いごと	北脇学 (出雲市)	
漁夫とかんこ舟	木下時雄 (隠岐の島町)	
跳ね駒	木村恭子 (出雲市)	
里の秋	桑原進 (松江市)	
夕風の舞	後藤孝司 (出雲市)	
結びの一番	古安正好 (松江市)	
彼岸花と蝶	近藤末美 (安来市)	
⑩ 青い世界	坂根昭一 (大田市)	
森の妖精	迫光徳 (松江市)	
雪垂	品川辰朗 (飯南町)	
風見とび	芝原本修 (松江市)	
⑩ 家族の時間	杉浦裕正 (浜田市)	
秋祭り	竹下朗 (出雲市)	
最後の春	竹下敏広 (出雲市)	
きらめく	武田克弘 (雲南市)	
宮島大鳥居	武田節朗 (松江市)	
⑩ 静寂の光	橘重孝 (大田市)	
絵馬供養	田村啓子 (松江市)	
イタッ!	田村武雄 (松江市)	
絵心	張玲姫 (松江市)	
ほほえみ	塚本順成 (飯南町)	
おすそわけ	塚本麻由子 (飯南町)	
水上のダンス	角森俊一 (出雲市)	
五穀豊穰	東條直樹 (奥出雲町)	
smile	徳島義孝 (雲南市)	

題名	氏名	備考
デートスポット	柳 樂 昌 宏 (松江市)	
未来	奈良井 謙 (松江市)	
放てー!!	西 上 耕一郎 (松江市)	
ブナのアイス	信 藤 一 郎 (飯南町)	
銀河	濱 豊 (松江市)	
デビュー	原 憲 治 (出雲市)	
かみさまへ	半 田 恵美子 (隠岐の島町)	
日暮れ道	福 田 一 壽 (安来市)	
初夏のブルー	藤 井 千 富 (出雲市)	
街角	藤 江 真知子 (出雲市)	
⑩ 棚田と共に	藤 田 好太郎 (浜田市)	
⑩ 天空の家	藤 田 昭 平 (江津市)	
ふるさとの川遊び	藤 原 彰 徳 (出雲市)	
ブナが彩る林を歩く	藤 原 明 美 (出雲市)	
古くなった家	藤 原 文 男 (出雲市)	
稲佐の浜の夕日	堀 江 利 加 (出雲市)	
闘魂	本 田 研 治 (出雲市)	
蛍火	牧 原 正 (飯南町)	
夕暮の散歩	松 崎 敏 江 (奥出雲町)	
⑩ 見廻り	松 田 桂 (大田市)	
⑩ 山里の正月	松 原 圭 佑 (大田市)	
⑩ 10月と碧とわたし	真 鍋 智 浩 (浜田市)	
天使の落とし物	三 島 しげみ (出雲市)	
⑩ 本番前	三 宅 亮 (益田市)	
宍道湖朝漁	森 脇 勇 吉 (安来市)	
雪化粧	安 田 勲 (飯南町)	
旅愁	安 田 朝 行 (松江市)	
パノラマ	山 野 則 美 (松江市)	
山里の秋	吉 井 陸 雄 (松江市)	
快晴	米 田 直 之 (安来市)	
化粧	若 槻 明 郎 (松江市)	
紅サンゴ	若 林 文 子 (飯南町)	
雲州浦々 暮景編	和 田 慎 (松江市)	
安全競技大会	渡 邊 敏 雄 (松江市)	
ラストラン	渡 部 久 由 (奥出雲町)	

招待

題名	氏名	備考
出番前	青 戸 繁 (松江市)	
⑩ 少年の夏	井 上 健 治 (浜田市)	
⑩ 初雪の朝	入 江 啓 介 (大田市)	

	題 名	氏 名	備 考
	スタート前	大 坂 武 (松江市)	
⑩	激走	尾 崎 剛 (浜田市)	
⑩	空に舞う	尾 崎 美 智 (浜田市)	
⑩	飛翔	春 日 通 男 (出雲市)	
	海の日	金 築 哲 (出雲市)	
⑩	スナバ	桂 川 亮 (松江市)	
	簸川平野にて	菅 野 紘 (松江市)	
	江戸の女 (松江城にて)	黒 川 恵美子 (松江市)	
	鯉心	黒 川 政 治 (松江市)	
⑩	刹那	小 林 茂 雄 (江津市)	
	祭日	佐々木 聡 (出雲市)	
	晩秋	常 松 利 理 (出雲市)	
	離別	出 川 正 廣 (松江市)	
	風に吹かれて	仲 佐 勝 己 (安来市)	
⑩	ふれあい	根 宜 康 広 (大田市)	
	古典日本髪	波 積 薫 (松江市)	
	冬日	藤 原 静 雄 (雲南市)	
	佳日	細 田 恵 子 (出雲市)	
⑩	目顔	三 浦 秋 男 (益田市)	
⑩	春景	吉 崎 佳 慶 (益田市)	
	をどる	荒 木 諭 吉 (出雲市)	
	Mikro kosmos	石 飛 桂 子 (出雲市)	
	あっ	井 上 豪 (松江市)	
	お家に帰ろう	岩 谷 順 子 (松江市)	
	祭事前	大 下 浩 昭 (松江市)	
	冬の水辺	太 田 淳 子 (松江市)	
	早春の風	岡 一 夫 (松江市)	
⑩	棚田の五月	岡 崎 茂 喜 (益田市)	
⑩	宵の舞	川 上 泰 正 (出雲市)	
	大蛇との戦い!	酒 井 重 礼 (松江市)	
⑩	サンセット	品 川 功 (大田市)	
⑩	夜半の秋	田 中 利 博 (奥出雲町)	
	霧の朝	田 村 唯 男 (松江市)	
⑩	秋朝の光景	西 尾 透 (出雲市)	
	たそがれ	西 澤 由 英 (奥出雲町)	
⑩	セピア色の駅	盆子原 政 司 (江津市)	
	コスモス	前 田 健 (隠岐の島町)	
⑩	炎・乱舞	松 谷 敏 秀 (浜田市)	
⑩	御霊会風流	三加茂 幸 子 (出雲市)	
	さくら	宮 廻 功 (松江市)	
⑩	宍道湖の音色	森 脇 寿 一 (松江市)	
	蜘蛛のファンタジー	山 下 壮 一 (出雲市)	
⑩	追憶	渡 辺 正 史 (松江市)	

デザイン

応募点数	51点	招待作品	17点
入賞点数	7点	展示点数	68点
入選点数	44点	◎は移動展出品作品	

(総 評) 昨年の応募点数をはるかに超える約50点の応募作品について、より客観的な評価を託された県外審査員という立場で、厳正なる審査に参加させていただきました。

都道府県レベルの美術展等においては、中央を含めた全国的な傾向として、応募点数が減少している中、本展では大きく増加しているという事実、まずは驚きを覚えました。

応募された作品群は、デザイン表現として極めて完成度の高い作品から、今後の成長が大きく期待できる作品まで、総じて力作が多かったという印象をもっています。表現方法は多種多様でしたが、細部に至るまで、計画的にそして丁寧に手が入られた作品が数多くみられました。したがって、審査にも慎重さが求められました。

審査の過程では、審査に関わる皆様方全員が、忌憚なく意見を出し合うことの重要性について指摘させていただきましたが、その後の活発な協議の様子を拝見して、本展デザイン部門にとってのこの機会が、応募者はもちろんのこと、会員の皆様方にとっても、互いに向上を目指すための貴重な機会だという自覚をもたれていることを強く感じさせられました。

そもそもデザインとは、単なる自由な表現ではなく、目的や機能を前提とする視覚表現であり、そのための、色彩や構図、材料やアイデアに対する計画や構想が重要だというのが一般論ですが、この大命題に対して、果敢に挑戦しようとする姿が、審査に携わる皆様方から受けた率直な印象です。

こうした集団であればこそ、応募が急増するのも納得できた気がしました。島根デザインの未来は明るい、外部の人間として、そう羨ましく感じる審査会でした。

(文責 後藤 雅宣／千葉大学 名誉教授)

知事賞 ◎

じゅうもく
十目

もり わき げん た
森 脇 玄 太 (松江市)

グラフィックデザインを大きく左右する要素に形と色があり、先ず、独特な配色が実に魅力的で観る人を引きつける。形であるイラストレーションも創造力あふれるキャラクターが小気味よく配置され、ていねいな描き込みも加わって、楽しく充実感のある作品となった。

(文責 寺尾 堂)

金 賞 ④

アトノマツリ

かつ た ゆう すけ
勝 田 優 介 (松江市)

架空の劇団による「耳なし芳一」の演劇ポスターとして制作された作品である。小泉八雲の怪談話として有名であるが、この内容が作者が長年放置してきた耳の聞こえの悪化・手術という出来事と重なったという。「アトノマツリ」という題名に自身の後悔が見てとれるが、この題名に反して作品そのものは賑やかに、一見すると楽しい雰囲気にとめられている。

細部に渡って自分の思いを表現していこうとする姿勢は高く評価されたが、画面構成に課題が残る。鎧の人物ではなく耳なし芳一を中心にし、キャッチコピーの選択・配置をもう少し吟味すると良いと思われる。

(文責 内田 京子)

銀 賞 ④

齢クライシス

せき
関 のぞみ (鳥取県)

デザインのことを理解して制作している。シンメトリーの構図で安定感を出したり、陰影で立体感を表現したり、計画的に観る人にメッセージを伝えることに成功している。

また、無彩色の画面の中にオレンジのアクセントカラーを効果的に使って、自身の危機感を強調している。

自分の思い通りにならない日常がリアルに伝わってくる作品。

(文責 春日 謙一)

銀 賞 ④

KATACHI かたち、自然が創り出す美しいパターン

せん ごく よし とく
仙 石 吉 徳 (大阪府)

白黒の画面の中にアクセントカラーとして、マゼンタの文字が効果的に使われている。

また、ZEROの文字を変形させて、4コマの枠を表現している工夫が面白い。

そのコマの中に描かれている、昆虫のパーツに作者が美しさを見い出していることで、魅力的なポスターに仕上がった。

(文責 春日 謙一)

銅 賞 ④

秘密のお茶会

さだ もり ゆめ
定 守 優 芽 (出雲市)

コンピュータグラフィックによる作品である。「非日常」をテーマに高校三年生の女の子二人が夜の教室でケーキを食べながらお茶会。不思議の国のアリスがモチーフになっているが青色の影部分、黄色の月の光の当たる所の配色に工夫してある事やアニメーションらしい表現や考え方が県外審査員の評価に繋がった。

(文責 平江 透)

銅賞 ⑧

オカシなキノコ^{ずかん}凶鑑

山崎絵里 (松江市)

食欲の秋。画面の中にたくさんの美味しそうなケーキが……と思いきや、これはキノコ?! よく見ると、一つひとつのキノコが、とても美味しそうなケーキに化けている。

色合いも優しく、文字の選択、周囲のぼかしも合わさって、大正ロマンを感じさせる。キノコのネーミングもぴったりで、遊び心のあるまとまった作品に仕上がっている。

(文責 奥 美奈子)

銅賞 ⑨

宍道湖七珍^{しんじこしっちゃん}

Chiku Chiku (松江市)

独特な手法で丁寧な切り絵で仕上げであり大漁旗を思わせるような迫力のあるイラスト作品に仕上がっています。これが乱雑に切り仕上げであると、どうしようもないが、細かく器用に、宍道湖七珍「ス・モ・ウ・ア・シ・コ・シ」宍道湖で採れる多彩な魚貝類の中からスズキ・モロゲエビ・ウナギ・アマサギ・シジミ・コイ・シラウオが細かく器用に浮き上がる重ね具合も絶妙で何よりも目立つ秀れた作品である。

(文責 平江 透)

入選

題名	氏名	備考
赤と黒	荒川 遥 磨 (奥出雲町)	
故郷	漆谷 成 (奥出雲町)	
龍笛	R e l a	
重なり築く松江城	石田 珠 亜 (安来市)	
目に刺さる	岸本 琉 風	
川崎の濫伐	百合澤 瑠 偉 (松江市)	
十五夜月～めぐり合いて・泡沫～	藤原 富貴子 (雲南市)	
宝物	石丸 夕 姫 (出雲市)	
島根に逢いに行く	伊藤 翔 音 (出雲市)	
あおい星	佐藤 向 陽 (出雲市)	
大好きな島根県	深石 侑 希 (雲南市)	
地元応援ポスター	黒田 クリスティーナ (大田市)	
探してみよう! いずもの桜	飯国 誠 治 (出雲市)	
ご近所の景色	長岡 郁 実 (出雲市)	
素晴らしき夕日	神田 光 貴 (松江市)	
「軌跡」	飯塚 涼 介 (松江市)	ポスター部門奨励賞
Washi Process	北野 快 輝 (松江市)	
Journey	小林 彩 音 (安来市)	
林檎と忘却の時	藤井 さやか (奥出雲町)	

	題名	氏名	備考
⑩	そして、14.822秒後。	(奥出雲町)	県外審査員特別賞
	境界	花田 蘭 (奥出雲町)	
	BLUE HEART	山根 遙 (松江市)	イラスト・造形部門奨励賞
	生命の時	今井 海 咲 (松江市)	
	「遊園地」の夢	内田 祈 (奥出雲町)	
	海遊石の種 II	渡部 史也 (松江市)	
	手話の神様	山縣 未空 (松江市)	
	歪み	三島 百合帆 (出雲市)	
	賛美歌『ハレルヤ』	木下 莉玖 (奥出雲町)	
	伝わる：否定的伝播	立花 わたる (出雲市)	
	最強の者	日野 建一 (出雲市)	
	異世界の不思議な時計	細木 博文 (松江市)	
	君を待つ	ねころび (松江市)	イラスト・造形部門奨励賞
	十三夜月～待ちわびて待ちわびて～	藤原 富貴子 (雲南市)	
	あなたはあなたのままでいい	I c c y (松江市)	
⑩	#かあちゃん	永原 弘康 (松江市)	県外審査員特別賞
	Everyday is a special day!	梶谷 大樹 (大田市)	
	星夜	貝谷 久美子 (美郷町)	イラスト・造形部門奨励賞
	融合	山根 裕子 (松江市)	イラスト・造形部門奨励賞
	赤不苦勞	藤原 久子 (松江市)	
	23:48	田邊 菜都美 (松江市)	
	はじめまして！大きなお友達	はやし まりこ (松江市)	
	ワニさん(サメ)の恋物語 「鬼の舌震」より～	嘉本 光留 (出雲市)	
	幻の園	小谷 朋美 (松江市)	
	混情	さかさび	

招待

	題名	氏名	備考
	Formation	石野 眞 (松江市)	
⑩	GAHAN2023-06 〈怪人、怪鳥を運ぶ〉	寺尾 堂 (益田市)	
⑩	ALL ALIVE	近藤 隆 (安来市)	
	Design ポスター	遠藤 毅 (雲南市)	
	命の価値は無限大∞	内田 京子 (奥出雲町)	
⑩	百歌花暦～十葉	奥 美奈子 (大田市)	
	地面効果翼機 MA-O XⅢ	春日 謙一 (松江市)	
	dangerous world	小原 恭子 (松江市)	
	DOZEN ROSE	錦織 秀行 (雲南市)	
	笑うカンコーT レレレイワミカグラ	平江 透 (松江市)	
	たまごの心根	秋國 紋子 (出雲市)	
	光	柳 楽武臣 (出雲市)	
⑩	一緒ならもっと笑顔になれる	山川 房子 (安来市)	

題名	氏名	備考
愛流 -IⅡ-	代高田 由 梨 (鳥取県)	
ホモサピエンスは進化したのか?	玉 木 喜久代 (出雲市)	
MOGAKU	吉 岡 さつき (安来市)	
⑨ Water Planet Part 4 From the abyss to the final odyssey	梶 明 広 (浜田市)	

彫刻

応募点数	21点	招待作品	4点
入賞点数	6点	展示点数	24点
入選点数	14点	移は移動展出品作品	

(総評) 彫刻の展示は例年より減って、総数が24点になりました。抽象表現・具象表現ともに自分の世界観が反映され、表現様式にとらわれない個性豊かな作品が多い展覧になっています。作品で追求されているのは時代の空気感、家族愛や人のぬくもり、自然の不思議な形などです。

『しまねの文化芸術体験事業』では、60歳以上の島根彫刻会のメンバーと高校生が、モデルを囲んで共に制作に取り組みました。このことは次世代育成のために大変意義あることでした。初めての本格的なモデル制作となった高校生の作品の一部が、今展でもその成果としてご覧いただけます。(文責 伊藤 眞美)

金賞 移

せいじょう
清浄

たち ぼな わたる
立花航 (出雲市)

植物と人体とを融合させたイメージを、継続して追求されています。丸みと張りのあるボリュームのうねりの中で、突起部分と着彩の変化がアクセントとなっています。

素焼きの中でもさらに素朴で難しい、野焼きという手法をひたすら追求されての制作です。今後さらにまとまりのある大きな作品に展開されることを期待しています。

(文責 伊藤 眞美)

銀賞 移

てんくう いえ
天空の家

さ とう のぶ みつ
佐藤信光 (安来市)

テレビ番組の『ポツンと一軒家』から着想を得て、のどかであたたかみのある作風に仕上げてありますが、どこか淋しさをも感じさせます。岩窟の上の村落は海外には実際にあり、そのような厳しい環境を思わせる現代の世相が、作品の全体像から漂っています。細かな表現を排除した形態とシンプルな着彩。そこに無数にあげられた小さな穴は、鑑賞者を夢と幸せの世界観に優しくいざなってくれるかのようです。

(文責 伊藤 眞美)

銀賞 移

Mother

お ぞえ のぼる
尾添昇 (出雲市)

見る角度で変わる滑らかで穏やかな全体像の中で、大小の突起が印象的で親しみやすい作品です。石膏の持つ無垢な白い素材感をうまく生かして、子供に向けた母の愛情が詩情豊かに表現できています。多少前かがみの重心が、子育てに向かう思いの強さを表しています。(文責 伊藤 眞美)

銅 賞 ③

れい わ まも
令和の守り

ごう だ まさる
郷 田 勝 (江津市)

月に見立てた丸い形態と、それを打ち破るかのように厳しい表情の龍が外の何かを見据えています。令和の時代に生きるものすべてに通じる厳しく、苦しい世界観がその表情から見て取れます。一木から掘り出された力強い造形には、作者の生き様のエネルギーが浮き彫りとなっています。木彫の素材の温かみを生かした丹念な作風から、作者の心の奥底にある優しさが感じられる労作です。 (文責 伊藤 眞美)

銅 賞 ③

エキゾチック

おお はた ひろし
大 畑 敬 (松江市)

中央アジアの女性モデルから様々な触発を受けて制作された作品です。体のつながりを的確にとらえられています。プロポーションの良さが取り入れられて、作品に伸びやかさを生んでいます。遠くをはるかに望んでいるポーズの中に、すがすがしい夏の空気感が伝わってきます。 (文責 伊藤 眞美)

銅 賞 ③

か よう
花妖

やま さき え み
山 崎 恵 美 (松江市)

中国の古い逸話からの着想で、椿の花に見とれていると現れる麗しい人を具現化してあります。物語の世界が、人物を取り巻く草花により、濃密に表現してあります。淡い着彩で、幻想的な世界が表現されています。小品ながらも、造形力の高さがにじみ出ている作品です。 (文責 伊藤 眞美)

入 選

	題 名	氏 名	備 考
	コロナ	佐 藤 信 光 (安来市)	
	明日に向かって 子実体	中 尾 柑 菜 (出雲市)	しまねの文化芸術体験事業
⑩	撰受	立 花 航 (出雲市)	
	髪を束ねた女性 或る女	吾 郷 薫 (大田市)	
	風の上に 鳥	宮 廻 優 有 (松江市)	しまねの文化芸術体験事業
		野々村 順 江 (松江市)	
⑪	春のおとずれ	大 廻 真由子 (松江市)	しまねの文化芸術体験事業
	パール	佐々木 柳 子 (江津市)	
	異国の女	松 谷 伸 吉 (出雲市)	
	柔軟体操	原 増 男 (出雲市)	
	思索	大 畑 敬 (松江市)	
⑫	夏の陽	高 橋 由美子 (出雲市)	
		佐々木 秀 子 (江津市)	

招 待

	題 名	氏 名	備 考
	連	近 田 裕 喜 (安来市)	
⑬	待つ	伊 藤 眞 美 (出雲市)	
⑭	歩	田 中 俊 晞 (江津市)	
⑮	刻…息吹き	松 本 健 志 (出雲市)	

